



POINT!!

今回のテーマである「皮肉 / sarcasm」はサーカズムと読みます。読み方を聞いてサーカスとの関連を疑った方もいらっしゃるかもしれませんが、その語源はまったく異なります。「サーカス / circus」がラテン語の「circus: 輪」から来ているのに対し、「皮肉 / sarcasm」は後期ラテン語の「sarcasmus: 辛辣なあざけりや皮肉な発言、風刺的な発言や表現」が語源です。どんな言語を使うときでも、相手を嫌な気持ちにさせることなく、クスッと笑える皮肉を使いたいものですね。

皆 さん、こんにちは。江陽中学校のALTのブルックです。

4月には私の大好きなアメリカの祝日「エイプリルフール」があります。皆さんご存じのとおり、この日はどんな冗談を言ってもよいのです。もちろん、ひどい冗談を言うてはいけません。例えば、体調不良のふりをして職場に休みの連絡を入れた後、時間通りに出勤して「エイプリルフール！」と叫びます。この冗談は誰にとっても良いことではないし、おそらくありません。冗談を言うとき、時には

「皮肉」も必要なのです。

アメリカ文化の中には、皮肉が日常生活のいたるところで使われています。そのため、皮肉の使い方を知っておかないと混乱してしまうのです。

※ 英語でいう皮肉 (sarcasm) は、「実際とは真逆のことを言っている」「ふざける」のような意味で使われます。

例えば、大雨の中傘を持たずに出勤すると、職場に着くころにはずぶ濡れになりますね。そこで、出社したときに「今日は本当にいい天気ですね」と皮肉を言います。ずぶ濡れで出勤する私を見て、誰かが大丈夫かと尋ねたら、「夢のような日々を過ごしています!」と、また皮肉で答えるのです。

ここで、私がエイプリルフールと皮肉についてのある体験を紹介します。私の大学があったモンタナ州の夏は、暑いことで有名です。私の大学のキャンパスでは、夏になるとシカがキャンパスのあちこちを歩き回っており、学生たちが食べ物を持っているとついてきました。あ

る暑い日、私は父と一緒に荷物古い寮から新しい寮まで運んでいました。私たちが寮と寮を行ったり来たりして数時間経つと、私たちが入らない寮の外には、大きな列ができていました。父は皮肉をこめて、「寮の中にシカがいるから行列ができるのだらう」とジョークを言いました。エイプリルフールの冗談としてはかなりおもしろいと思いましたが、私は「荷物の移動のためにエレベーターが詰まっているから動けないだけだ」と断言しました。しかし、30分ほど動かない行列に全員がイライラし始めました。ようやく、寮のフロントで働く学生の



私の大学にいるシカ

一人が外に出てきて、列の全員に聞こえるように大きな声で言いました。「寮にシカが入ったようです!」これが皮肉だったなら、シカは中にはいません。しかし残念ながら、彼女の声のトーンは冗談ではありません。寮の中にはシカがいました。

日 本に住んでいると、日本と韓国の方々は似たような情緒を持っているんだなと思うことがよくあります。それは、共同体意識と他人との関係を重要視する方が多いことと、感情を表わすことを自制し謙遜することを美徳と考える傾向があることです。それは、地域的にも一番近い国であり、歴史的にも社会的つながりをお互いにたくさん共有しているからではないかと思っています。似たような情緒を持っていますが、違う国なので文化が違うのは当たり前です。今回は、韓国の新年についてお話しします。

韓国の新年は、日本と同じように家族全員が集まって良い一年になるように祈る日であり、一年の中で一番大きな祝日だと言えます。韓国では新年の朝に家族が集まり、先祖にたくさん食べ物を供えてその場で先祖に良い一年になるように祈りを捧げます。お祈りが終われば、次は目上の方たちに感謝の言葉を捧げます。これは、目上の人たちが存在するので今の私が存

在するという理由です。その後、大人たちがお年玉をくれたり励ましの言葉をかけてくれたりし、最後に先祖に供えた食べ物を家族全員で食べながら時間を過ごします。

多くの韓国人が知っている日本のお正月料理があります。それはお雑煮です。日本で新年にお雑煮を食べるように、韓国でも「トックク」というおもちが入った汁物を食べます。トッククは、もともと長くて太いおもちを薄く切り、牛肉ダシのスープに入れて作る料理です。長く太いおもちを「カレットック」と呼ばれており、見た目のように長く太く長生きするという縁起の良い食べ物です。

先日、人生で初めておもちを自分の手で作りました。韓国でもおもちを作る文化がありますが、テレビでしか見たことのないおもちつきを与謝野町で子どもたちと一緒に体験することができました。下山田区では毎月、子どもたちに絵本の読み聞かせやおもちつき



人生初のおもちつき

など、いろいろな経験を伝えるために活動されている「かかし文庫」という団体があります。着任後、かかし文庫の方々と一緒に協力して、子どもたちに韓国の文化や正月遊びについて話したり、みんなでおもちを作ったりする時間も持つようになりました。

雪が降る寒い日でした。下山田山田公民館にみんなが集まって体を動かし、杵でつくことでもち米がどんどん大きな丸いおもちになっていく様子を見て、人は一人のときよりも大勢が集まっているときに相乗効果を出せるということを感じました。

した。自分たちの手で作ったおもちをみんなで分けて食べるのも、本当に楽しい時間でした。子どもたちも自分の手で作ったおもちをとておいしそうに食べていましたし、もっと食べたという子もいました。自分で作ったもののおいしいときほど、やりがいのあることはないのではないかと思います。

子どもたちに特別な思い出をプレゼントしようと、さまざまな体験を企画している地域の方々の温かい心が感じられました。子どもたちのために、丹念に準備されたかかし文庫やお手伝いの方々の尽力に深く感動を受けました。地域の方々の美しい心が子どもたちにとって良い思い出として残ると思います。

山田地域と与謝野駅周辺の活性化に向け、与謝野町のPR活動をしています。与謝野町や丹後地域で活動の様子をYoutubeに公開しているので、ご覧いただくと励みになります。動画には私も映っているので、まちで見かけたら、気軽に声をかけてください!



Youtube